

被爆 77 年 核兵器なき未来を願い 平和集会を開催

KAKKIN は 8 月 5 日 (金)、広島平和地方集会を、また 8 月 8 日 (月) に長崎平和全国集会をそれぞれ開催しました。

■ 広島平和地方集会では主催者を代表して、永山博之 KAKKIN 広島議長 (広島大学大学院教授・KAKKIN 副議長) が「人間の社会行動を決める重要な要素は習慣の力。数年にわたって空白が生じると、元の状態に戻すのは難しくなる。その意味で、コロナ禍ではあるが、このように多くの人にリアルに参加してもらったことに感謝する。そして KAKKIN のような社会運動ではバランスが大事だ。その運動が社会にどのような影響を及ぼすかも考えながら、会員はもちろん社会のいろいろな人と話をしていきたい」と挨拶しました。



また本部を代表して郡司典好議長代行が「核不拡散条約 (N P T) 再検討会議で岸田首相がヒロシマアクションプランを公表したが、これは政府として一歩踏み込んだもの。来年の広島での G 7 に向けてしっかり進められるよう見守っていきたい」と述べました。

次いでカンパ金（医療器具）を4団体に贈呈し、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了しました。



この後、第二部として永山議長と前 KAKKIN 広島議長の島田勝行氏との対談形式で「KAKKIN 運動における広島県組織～運動の歴史を回顧して」と題した講演会が行われました。この対談は、運動の現場にいた方から直接その時の経緯や状況を聞くことは、公式な年史と違う価値があり、文書に残っていないことも含めて、運動の歴史を後世に伝えていきたいとの思いから試みたものです。



対談では、島田氏が KAKKIN 運動に関わったきっかけからはじまって、核禁会議が結成された当時の様子、平和公園内にある平和の灯建設の事情、KAKKIN 広島が先鞭をつけた韓国被爆者救援活動のことなど、貴重な話を聞くことができました。

■長崎平和全国集会は、長崎市立長崎中学校音楽部「爽（そう）」による“千羽鶴”“さとうきび畑”“アメイジンググレイス”の3曲のハンドベル演奏でスタート。



第一部として KAKKIN 本部・渡邊啓貴議長が「核兵器廃絶へのみちすじ～安全保障体制の構築とウクライナ危機」と題して講演を行った。この中で渡邊議長は、NPTと核兵器禁止条約という核軍縮・核廃絶の枠組みに触れたうえで、ウクライナ危機を契機に声が高まっている防衛力強化や核抑止について、もっと本質的なところまで掘り下げた議論が必要と述べました。



第二部の式典では、KAKKIN 長崎を代表して松尾敬一議長が「ウクライナの状況には胸が痛む。KAKKIN が建設して長崎市に寄贈した平和の泉は、この4月までウクライナ国旗の青と黄色にライトアップされ、一日も早い戦争の終息を願ったところである。そして三たび核兵器が使用されたら地球は壊滅だ」と述べ核兵器廃絶を訴えました。



続いて、KAKKIN 本部の渡邊議長は「いま世界でエネルギー危機が起こっている。KAKKIN として核兵器廃絶に加えて、この問題にも正面から取り組んでいきたい。いわば生活者の平和活動である」と挨拶しました。

来賓の田上富久・長崎市長は「いまニューヨークでNPT再検討会議が開催されているが、これは『壁の中』の会議だ。しかし壁を取り囲んで声を出すことで、水が壁の中にしみこんでいくように私たちの声も届いていく」と挨拶し、核兵器廃絶には市民社会の力が重要であることを強調しました。なお田上市長からは、KAKKIN のカンパ活動に対する感謝状を頂戴しました。



次いでカンパを寺門副議長（日産労連会長）から、5団体に贈呈し、最後に平和集会アピールを採択して式典を終了しました。

